
影の住む森

炎舞

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

影の住む森

【Zコード】

Z5688M

【作者名】

炎舞

【あらすじ】

警告を無視して森へと入った四人の旅人。

彼らは、ヤツ、から手厚い祝福を受けることとなる。

愛と希望と夢が詰まつた究極のファンタジー、ここに開幕！

・・・すいません。後半、嘘つきました…。

「逃げる。逃げる！　ちくしょうーー！」

普段は人のいるはずのない暗黒に包まれた森で、俺は一人で走っていた。

さつきまではあんなに楽しかったのに。

さつきまでは希望があつたのに。

ヤツのせいだ、今ではこの様だ。

今朝、この森の入口にあつた警告を無視しこの森に入った時、すぐには気配を感じた。

だが、すぐにいなくなつた。　いや、いなくなつたと思つていた。

しかし、ヤツは待つていたんだ。俺達が眠りにつくときを。

俺達が眠りにつくと、すぐにある男の断末魔の叫びが夜の森を貫いた。

俺は驚いて飛び起き、剣を抜いた。

すると、そこには錯乱した不寝番の姿があつた。

彼は、この世の終わりを見たかの様な表情で近くの茂みを指さしていた。

「何だ？　なにかいるつてのか！」

次の瞬間その茂みで何かが動いた　と同時に俺の目の前からその男の姿が消えていた。

「なつつ！」

急いで周りを見渡すと、後ろに…今まで何もいなかつたはずの空間にヤツはいた。

姿は、はっきりとは見えないが闇の中に光る不気味な紅蓮の瞳の中

には、

しつかりと俺の姿が映しだされた。

ヤツの足元には、何か大きな‘物体’が落ちていた。そこからは、大量の赤い液体が流れ出ていた。

おい、今何があった。見えなかつたぞ…。

「う…うお…うおおおおおおおおお…！」

皆が茫然としている中、仲間の一人がヤツに剣を向け、突っ込んでいった。

その声が引き金になつたのか、もう一人の仲間もその後に続いた。しかし、ヤツは動く気配がない。

(いける!!)

そう思つた瞬間信じられること起つた。

ヤツの足元に、影、が現れたのだ。

影といつても、それは二次元ではなく三次元のものとして存在していた。

二人は、一瞬たじろいたが、また、すぐに走り出した。

すると、ヤツの影はゆっくりと姿を変えていった。

ヤツは、少しも動いていない。しかし、ヤツの影は一匹の生命体のように動めている。

二人が同時にヤツに切りつける。

そして、剣が突き刺さ…らなかつた。

二人が突きさした剣はヤツの影によつて、受け止められていた。

二人は、一瞬何があつたのか分からぬようだつたが、

隙を見せてはいけないとすぐに剣を構えなおす。

「一体、どうなつてやがる！」

そう言いつつ、二人はまたヤツに切りかかる。

しかし、また同じことが起についた。

ちくしょう！…今までの冒険はなんだつたんだ。こんな時に足がすくんじまうなんて。

一步も動けねえ！！ くそ！…俺も早く戦わないと。

自ら、旅に同行すると言い張つたあの時、覚悟はしていたはずだった。

辛いことがあるかもしない。仲間を失うかもしない。死ぬかもしない。

全て分かつていたことだつた。なのに、実際に仲間が殺されるところか！

くそつ！ むくしょづ…！

俺は思わず、声に出しそうになるが、他の声に阻まれた。

「おい！このままじゃあ、体力の無駄だ！どうすればいい！」

その声にもう一人の仲間が反応する。

「そんなもん知るか！お前こそ、何かないのか？ なあ…。なあ…。」

「そんなに慌てるな！」つちが仲間割れしてどうか、…つー…！」

突如、ヤツと仲間の一人の姿が視界から消えた。

俺が呆気にとられると、もう一人の仲間が唐突に聞いてきた。

「おい。何か聞こえねえか？」

グチュツ！ ギチュツ！

よく聞くと、どこのからか氣味の悪い音が、絶えず聞こえてくる。それは何かを咀嚼する音だつた。

「うつ・・・うわああああああああああああああ！」

仲間をたけ続けに殺された恐怖からか、最後に残つた仲間が悲鳴を上げ、森の奥へと逃げて行つた。

しかし、暫く聞えていたその叫び声も嘘だつたかのように唐突に途

絶えた。

周りは驚くほど静かだった。まるで、数分前の惨劇が嘘のようだ。

道にたし

そう自分は言い聞かせるか体はなかなか言ひことを聞かない恐怖に、脳以外は全て壊されたようだ。

「くそつ。動けええええええ！」

気付かれてもいい。

そう思い、俺は叫んだ。こんな声が出来たといふくらい大きな声で。

すると、体の中の何かが外れたように、いきなり体が動いた。

徒つた。

恐怖に怯え、恐怖に戦いながら走った。

げているのがよく分かる。

。 いかに 体に 重く さうに いふが も分からぬ し恐懼が あり 進むて

普段は人のいるはずのない暗黒に包まれた森で、少年は一人で走

つ
て
い
た。

その先に、何が待ち受けているのか知る由もなく……

(後書き)

初投稿です。

なので、今回はありがちなものを書いてみました。
物足りなかつたと思いますが、読んでいただき、ありがとうございます。
ました。

感想、お願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5688m/>

影の住む森

2010年10月10日06時21分発行